ひまわり

令和４年度第10号
山鹿市立大道小学校
令和5年1月10日発行
文責：校長　池田　功

三学期もよろしくお願いいたします！

冬休み中の子どもたちの健康管理等、大変お世話になりました。冬休み中の「ワクワク教室」にも元気に参加してくれました。意欲的に参加してくれた子どもたちをうれしく思いました。また、道変わらずに大・保護者の方子応援団々に丸付けボランティアに参加していただきました。ありがとうございました。

保護者・地域の皆様、三学期（今年）も本校への変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

ワクワク教室

「熊本の心」作文　熊本県教育委員会賞　受賞　六年　濱武　大輝くん

六年の濱武大輝くんが、「熊本の心」作文で「熊本県教育委員会賞」を受賞しました。十二月二十六日（月）に県庁で表彰式があり、二十七日（火）に早田山鹿市長を訪問しました。大輝くんは、灯籠のうちわの図柄でも受賞して、山鹿灯籠の図柄に使われました。作文も山鹿灯籠に関わる伝統を受け継ぐことを書いています。また、「熊本の心」の作文は、昨年の川上心愛さんに続いて本校が「熊本県教育委員会賞」を連続受賞しました。大輝くんの作文を紹介します。

鹿本中学校川野逞くん・早田市長・濱武大輝くん

灯ろうの心を受け継ぐ

大道小　六年　濱武　大輝

山鹿灯ろう祭りが、今年も中止になってしまった。ぼくは、久しぶりに祭りに出かけて、出店でおいしいものを食べたり、友達にあったりしてにぎやかに過ごすことを楽しみにしていた。とてもがっかりしていたが灯ろう祭りが行われるはずだった当日、ニュースで山鹿灯ろうの奉納が行われているところが放送されていた。祭りは中止のはずなのに、どうしてだろうと不思議に思っていた。しかし、熊本の心の「たった一基の奉納灯ろう」について知り、その理由が分かった気がした。

「たった一基の奉納灯ろう」をつくったのは、山鹿灯ろう師の松本清記さんだ。折り紙が好きで、家のふすま張りも夢中になって何時間も続けられる子どもだった。叔父がしていた灯ろう制作にもどんどんひかれていった。叔父の仙太郎は、厳しい人で、自ら手を取って教えるようなことはしなかったのに、清記さんは、製作の技法や約束事を身につけて、「熊本城全景」というすごい作品をつくった。

教えられないのに身につけられるということは、清記さんが自分から学ぼうと思って必死に見たり、聞いたり、自分で練習をしたりしてきたはずだ。これがぼくには足りなかった。ぼくも野球や勉強をできるようになりたいと思う気持ちはある。しかし、「もっと上手に」とか「もっと勝ちたい」とか自分で思って、自分からできることを見つけて夢中でやっていくような強さとか情熱みたいな心がぼくにも必要だと思った。戦争のときでさえ奉納された清記さんの灯ろうは、清記さんの心を表していると思う。「灯ろうの伝統を途絶えさせたくない。」「灯ろうづくりを受け継いでつないでいくのは自分しかいない。」周りがどんなに変わっても、難しい状況でも、自分がやると決めたことをつらぬき通すことは、本当にすごいことだと思う。伝統というのは、こうやって受け継がれてきたのだと改めて思った。

ぼくたちの山鹿市には、灯ろうやうちわなど古くからの伝統がたくさん受け継がれている。このことは総合の学習で知っていたが、「熊本の心」を読んで、伝統には、その伝統を受け継いできた人たちの「心」があると思うようになった。「自分から学ぼうとする心」「もっとよくなろうとする心」「自分のきめたことを信じ、つらぬこうとする心」など、こんな心をもってやっていくことは、きっと自分のためだけじゃなくて、人のためにもなると思う。

祭りや灯ろうのように、ぼくたちが楽しんでいるものや日常の生活の中には、清記さんのような「心」が受け継がれてできているものが、もっといっぱいあると思う。そんな風に見てみると、もっと感謝の気持ちをもって生活したいと思うし、自分の中にある「灯ろうの心」を大きくしたいと思うようになった。今日の野球の練習が楽しみになった。

二学期終業式の子どもたちの発表

十二月二十三日（金）に終業式で三人の子どもたちが二学期にがんばったことを発表してくれました。二学期にそれぞれのことに挑戦し、充実した二学期であったことが分かりうれしくなりました。三人の発表を紹介します。

終業式３人の代表者

二学期にがんばったこと

一年　小野木　朝

わたしが二学期にがんばったことは、持久走大会の練習です。わたしは、練習が始まった最初の時は、きついからいやだなと思っていました。でも授業の時に、西川先生からスッスーッハの息の仕方を教えてもらって、それを一生けんめいがんばりました。すると体が軽くなって手と足がよく動きました。本番は、一番はやいタイムで、走ることができたのでよかったです。

わたしは、もう一つがんばったことがあります。それは、あいさつです。いつも登校する時に、上級生のお姉さん、お兄さんが気持ちのよいあいさつをしてくれます。それを見て、わたしもまねをしようと心で決めました。それから大きな声で気持ちのよいあいさつを毎日続けました。これからもがんばりたいです。

明日から冬休みなので、勉強もしっかりがんばっていいお休みにしたいです。

二学期にがんばったこと

三年　若杉　大二郎

ぼくが、二学期にがんばったことは、二つあります。

一つ目は、学力テストです。三年生にとっては、初めての県の学力テストでした。練習からむずかしい問題ばかりで、「やりたくないな。」と思ったこともあった。

たけど、まちがった問題を自学で復習したり、一回一回のパワーアップタイムを大切にがんばりました。本番難しい問題もあったけど、自分なりにがんばれたのでよかったです。

二つ目は、あいさつです。一学期に見守りたいの人に「おはよう。」と言われても、はずかしくてあいさつができませんんでした。でも、二学期は気持ちのこもったあいさつがしたいと思うようになり、あいさつをすることができました。今では、はずかしがらずにあいさつを返せるようになり、最近は、自分から「おはようございます。」と気持ちのこもったあいさつができるようになりました。これからも続けていきたいとです。

三学期にがんばりたいことは、発表です。二学期は、まちがっていたらどうしようという気持ちやはずかしい気持ちがあり、なかなか発表することができませんでした。三学期は、三年生のまとめの学期に入るので発表がたくさんできるようになって、りっぱな四年生になりたいです。

二学期にがんばったことと、三学期にがんばりたいこと

五年　上村　しずく

わたしが二学期にがんばったことが、二つあります。一つ目は、集団宿泊です。班で活動することが多く、班の仲間と協力しながら、楽しく活動することができました。また、五分前行動を心がけて過ごしました。初めは、待たせてしまうこともあったけど、意識して過ごすうちに、五分前行動ができるようになりました。学校でも、集団宿泊の経験を生かしてクラスのみんなで声かけをしながら協力して五分前行動ができるようになりました。

二つ目は、水俣病の学習です。差別や偏見などの人権のこと、環境のことなどについて学習しました。実際に水俣市に行って環境センターや資料館、語り部さんの話を聞いたりして、水俣病のことについてより多くのことが学べました。語り部さんの話の中で、「おかしいことには声をあげろ。」という言葉が心に残りました。自分がおかしいと思ったことは、注意して、人との関係を大切にしていこうと思いました。

わたしが三学期にがんばりたいことは、六年生に向けての準備です。来年は六年生になるので、今の六年生みたいにきびきび行動ができるようになりたいです。勉強でも、学ぶ内容が多くのなってくるので、特に、苦手な算数を一番がんばりたいです。また、新しい一年生が入学してくるので、学校のことについて教えたり、いっしょに遊んだりして、一年生からたよられる存在になりたいです。一年生のお世話をしたり、だれかが困っていたら、すぐに助けられるやさしい六年生になりたいです。低学年のお手本になれるようにがんばります。もう一つがんばりたいことは、なわとび大会です。毎年、持久とびで三分間とべているので、今年もとべるようにがんばりたいです。昨年、できなかった技に挑戦して、いろんな技ができるように練習をしようと思います。大なわとびでは、みんなと協力して、たくさんとびたいです。

そのために、冬休みには、算数の復習をしたり、運動をしようと思います。